

令和 8 年度

読解・表現力試験

注意

1. 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題紙は 6 ページ、解答用紙は 2 枚です。指示があってから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
3. 答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
4. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
5. 試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

1 以下の文章を読み、問1～問5に答えなさい。

人間にとって、知識をもつこと、さまざまな事柄を知っているということが重要であるの
は言うまでもありません。しかし、そもそも、あることを「知っている」とはどういうこと
でしょうか。「知っている」という言葉があてはまる状況を成立させる条件を、三つに分け
て考えてみましょう。

ある事柄について、「○○である」と知っている、と言えるためには、まず、「○○である」
というように当人が思っている、信じている必要があります。「日本の首都は東京である」
と思っていない人は当然、日本の首都がどこであるかを「知っている」とは言えないからで
す。しかし、もちろん、私たちが思っていること、信じていることがすべて知識であるわけ
ではなく、その内容が事実と合致していなければ、「知っている」ことにはなりません。仮
に「地球外生命体が存在する」ということが事実でないとしたら、いくらそのように強く信
じていても、それは単なる信念であり、決して知識とは言えないからです。

では、事実であることをそのとおりに信じていれば、それだけで、そのことを「知ってい
る」と言えるのでしょうか。たとえば、「この問題の正解は選択肢1だ」とあなたが思っ
ているとして、仮にそれが本当に正解であるとしましょう。しかし、「選択肢1が正解だ」と
あなたが思っているのが、鉛筆転がしをして1の数字が上になったからだとしたらどうで
しょうか。この場合、あなたの思っていることはたしかに事実と合致していますが、それは、
その問題をまっとうに解いたからではなく、単に偶然当たっていたにすぎません。したがっ
て、あなたは選択肢1が正解であることを「知っている」とは言えません。あることを「知
っている」と言えるためには、そのことを信じるに足る適切な理由、その信念を理にかなっ
たものにする理由がなければならぬのです。そのような理由のない信念は「不当」であり、
そのような理由のある信念は「(ア)」である、と言い換えてもよいでしょう。

(X)、 「知っている」という言葉があてはまるためには、「事実をそのとおりに、しか
も適切な理由で信じている」という状況になっている必要があるように思われます。では逆
に、そのような状況であれば必ず、「知っている」という言葉があてはまるのでしょうか。
つまり、知識とは事実についての正当な信念にほかならない、とまとめてよいでしょうか。
さらに一歩進んで考えてみると、a そうではないことがわかります。たとえば、次のような
状況を想像してみてください。あなたが今いる教室の隅に、あなたの親友のAさんの姿が
はっきりと見えます。そこであなたは当然、「この教室にはAさんがいる」と信じます。あ
なたがいる場所からまぎれもなくAさんの姿が見えているのですから、これは上で述べた
意味で正当な信念です。このとき、あなたに見えている人が実はAさんではなく、たまた
まAさんにそっくりの、まったく無関係の別人だとしたら、あなたの信じている内容はも
ちろん事実ではありません。しかし、さらに、同じ教室の中のあなたから見えない位置に、
たまたまAさん本人もいたとしたら、そのときには、「この教室にはAさんがいる」という
あなたの信念は事実と合致します。

このような、めったにないが可能性としては起こりうる事例において、事実をそのとおりに、しかも適切な理由で信じている状況は成立しています。だからといって、あなたが「この教室には A さんがいる」ということを「知っている」とは言えないでしょう。あなたの信念が事実と合致しているのは（イ）にすぎないからです。以上の事例は、事実についての正当な信念をもっているだけではそれを「知っている」とは言えない、ということを示しています。「知っている」という言葉があてはまるためには、b 上で考えた三つの条件を満たすだけでは十分ではないのです。

では、何が足りなかったのでしょうか。あるいは、これまでの考え方のどこかに、根本的におかしなところがあったのでしょうか。「知っている」というごくありふれた日常的な言葉は、実はこのような厄介な謎を秘めたものなのです。

問1 (ア), (イ)に入る適切な語(いずれも漢字二字)を,それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。

問2 (X)に入る適切な接続語を書きなさい。

問3 下線部 a のように筆者が主張するのはなぜか。その根拠を示した下記の文の空欄 (i), (ii)に入る適切な言葉を,本文の第五段落中から抜き出してそれぞれ20字以内(句読点,かぎかっこを含む)で書きなさい。

(i)にもかかわらず(ii),ということがありうるから

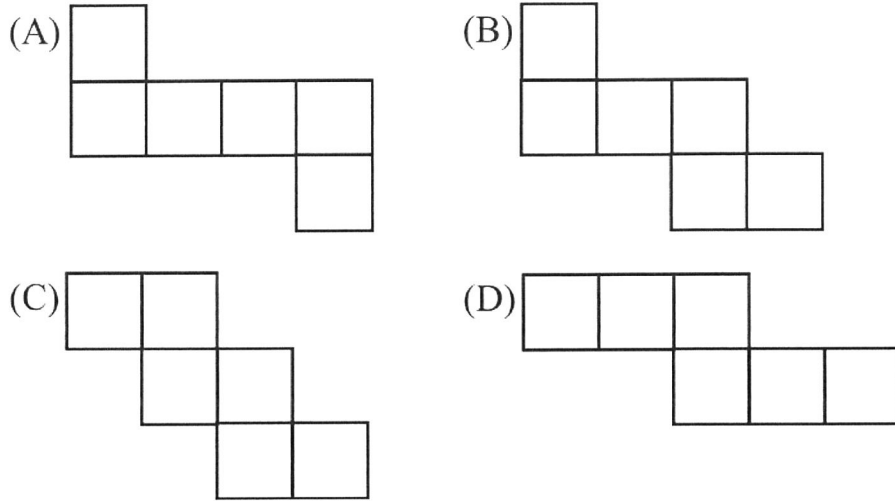
問4 下線部 b の「三つの条件」とは何か。本文中の言葉を用いてそれぞれ20字以内(句読点,かぎかっこを含む)で書きなさい。

問5 次の①～④について,本文における筆者の考えと合致しているものに○を,合致していないと言えないものに×を,それぞれつけなさい。

- ① 知識が成立するためには,信念の内容が事実と合致していなければならない。
- ② あることを強く信じて生きているのであれば,その信念は当人にとっては正当である。
- ③ 正当な信念であっても,その内容が事実どおりであるとは限らない。
- ④ ごくたまたま成り立つような奇跡的な条件の重なりが,知識を成立させることもある。

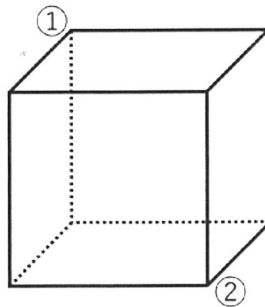
2 以下の文章を読み、問 1～問 5 に答えなさい。

展開図とは、立体図形を辺で切り開き、平面で表した図のことです。立方体の展開図は、11 種類あり、以下の (A) ～ (D) の 4 つの型に分類することができます。ここでは、展開図の縦方向の並びを列、横方向の並びを行とします。

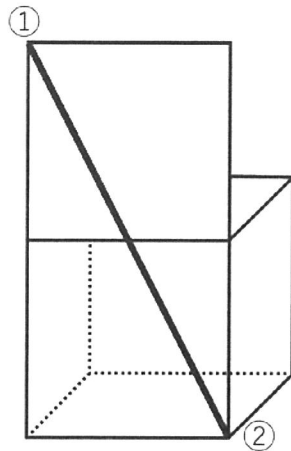


(A) は 1 行目に正方形が 1 つ、2 行目に 4 つ、3 行目に 1 つあるので 1-4-1 型、(B) は 1 行目に正方形が 1 つ、2 行目に 3 つ、3 行目に 2 つあるので 1-3-2 型とよびます。また、(C) のような (ア) があります。(A) ～ (C) では、立方体の展開図となるためには、4 列が存在することが決まります。さらに、(D) のような 3-3 型もあります。ただし、3-3 型は (D) しか立方体の展開図になりません。

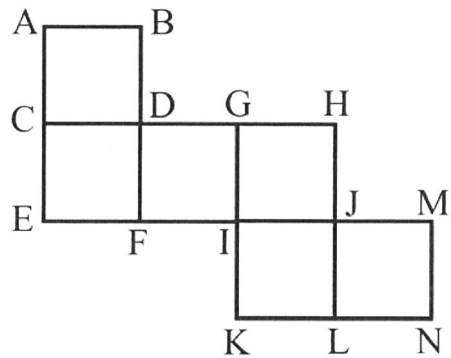
次に、展開図を組み立てて立方体を作るとき、ある頂点がどの頂点と重なるか、調べてみましょう。このとき、ある法則を利用すると、容易に求めることができます。まず、下のよ
うな立方体の見取り図を考えます。



頂点①に注目すると、この点から最も遠い点は頂点②になります。そこで、この見取り図の上面を広げ、頂点①と頂点②を直線で結んでみます。



すると、「立方体の最も遠い2点は、展開図では2つの正方形からなる長方形の対角線の位置にくる」ことがわかります。このことを利用して、下図の展開図を組み立てたとき、頂点Aはどの頂点と重なるか、求めてみましょう。



まず、頂点Aから最も遠い頂点は、(イ)と求めることができます。続けて、(イ)から最も遠い頂点は、頂点Aと(ウ)となります。したがって、この展開図を組み立てたとき、頂点Aは(ウ)と重なります。

問1 (ア)に入る適切な展開図の型を書きなさい。

問2 1-3-2型であっても、立方体の展開図とならないものがある。その図を一つ書きなさい。また、その図が立方体の展開図とならない理由を、展開図の決まりをもとに、20字以内(句読点を含む)で書きなさい。

問3 (イ)、(ウ)に入る適切な語を、それぞれ書きなさい。

問4 立方体の展開図で、ある頂点から最も遠い頂点を求め、さらにその頂点から最も遠い頂点を求めると、展開図を組み立てたとき、ある頂点と重なる頂点がある。その理由を、30字以内(句読点を含む)で書きなさい。

問5 次の①～④について、本文の内容と合致しているものに○を、合致していないものに×を、それぞれつけなさい。

- ① 展開図とは、立体図形を面で切り開き平面で表した図のことである。
- ② 立方体の展開図には、どの型にも複数の種類がある。
- ③ 立方体の展開図となるためには、展開図には4行が存在することが必要である。
- ④ 展開図を組み立てて立方体を作るとき、ある頂点がどの頂点と重なるかを求めることは難しい。